

日露青年交流センター  
日本語教師派遣事業

2018 年度  
帰国報告書



ОРЕНБУРГСКИЙ  
ГОСУДАРСТВЕННЫЙ  
УНИВЕРСИТЕТ

オレンブルグ国立大学

久坂 希美

(1) 年間業務日程

年	月	日	
2018	8	27	着任
	9	3	前期授業開始
	10	4	「日本の日」コンサート 日本映画上映・マスタークラスなどの文化イベント週間(11日まで)
		28	日本展示会オープンセレモニー
	11	4	夜の美術館にて文化イベント
	12	25	学生向けクリスマスパーティー主催
	12	29	前期授業終了
			冬期休暇
2019	1	8	後期授業開始
	4	13	沿ヴォルガ日本語弁論大会(ニージュニー・ノブゴロド)
	4	30	広島大学の代表団 来学
	5	16	愛媛県・オレンブルグ柔道交流
	6	12	愛媛坊ちゃん劇場「誓いのコイン」上映会
	6	24	学生向けパーティー主催(予定)
		27	後期授業終了(予定)
		28	任地離任(予定)

(2) 赴任校の概要

<大学名> オレンブルグ国立大学

Оренбургский государственный университет

ORENBURG STATE UNIVERSITY

<学長> エルマコワ・ジャンナ・アナトーリエブナ

Ермакова Жанна Анатольевна

Ermakova Zhanna Anatolievna

<所属> オレンブルグ日本情報センター

Японский информационный центр

Оренбургского государственного университета

Japan Information Center of Orenburg State University

<所在地> Россия , 460018 г. Оренбург, проспект Победы, 13  
13, Pobedy avenue, Orenburg , 460018, Russia

<連絡先> 電話: +7(3532) 72-37-01,+7(3532) 92-43-62 メールアドレス: [post@mail.osu.ru](mailto:post@mail.osu.ru)

<日本語教育コース設置年> 2008年9月

<日本語コース責任者>

日本情報センター長 ドカシェンコ・リュドミーラ・ヴラジーミロブナ  
Директор Японского информационного центра ОГУ  
Докашенко Людмила Владимировна  
Director of Japan information center OSU  
Dokashenko Lyudmila Vladimirovna

電話: +7(3532) 37-25-95 メールアドレス: [japancenter@mail.osu.ru](mailto:japancenter@mail.osu.ru)

<日本情報センター 日本語コースカリキュラム>

当日本語コースは公開講座であり、オレンブルグ大学の学生だけでなく、13歳～社会人まで、様々な年齢、職種の人が在籍している。授業料は3000ルーブルほどで、修了時希望者には履修証明書(要申請・有料:150ルーブル)が交付されるが、大学の単位にはならない。

今年度は1年生(昼クラス、夜クラス、金曜クラスの3クラス)、2年生(昼クラス、夜クラスの2クラス)、3年生を開講したが、1年金曜クラスと2年夜クラスは人数の関係で後期から他クラスに併合された。授業は90分1コマで、週に2回。

年間の授業時間は120時間程度である。

<日本語履修学生数(6月時点)>

1年生	26名	2年生	7名
3年生	3名		

計 36名

<日本語履修学生のレベル> 初級～初中級

1年生はひらがなカタカナから始まるゼロ初級で、『みんなの日本語Ⅰ』を主教材とし、初級前半を、2年生はその続きから『みんなの日本語Ⅱ』へ移行し、初級中盤を、3年生は『みんなの日本語Ⅱ』を終了し、その後『中級へ行こう』で初級の文法の復習と応用を行っている初中級である。基本は新年度に上のクラスに進級し、前年度の続きから行われる。

〈日本語教師数〉 1名

報告者のみで授業を行っている。

出張や祝日等で授業が休みになった場合、月曜と水曜の夜クラスの時間か、通常の授業の時間を延長して休講分を補填するようにしている。

やむを得ず長期で授業を行えない場合は、日本情報センターの職員が文化クラスを行い、代講としている。

〈日本語履修学生の卒業後の進路〉

オレンブルグは他都市と異なり日系企業等がなく、日本人との関わりが希薄である。この地方で就職する限り仕事で日本語を使うことはほとんどないため、学生は趣味として日本語を学んでいる。

現在社会人の学生たちも、教員・大学職員・ビジネスマンなど、それぞれ日本や日本語とは関わりのない職に就いている。大学生や中高生の学習者たちも、学んだ日本語を仕事で使うというよりも、旅行やサブカルチャーを日本語で楽しみたいということで学んでいる。

その中でも、学術協定を結んでいる広島大学の留学プログラムなどで日本を訪れたり、オレンブルグに訪れた日本人に日本語で案内をしたりと、日本語を積極的に使い、いずれは日本語を使って仕事をしたいと思っている学習者もいる。

### (3)日本語教育業務

〈時間割〉

下記の通り、前期週 12 コマ、後期 8 コマ行った。学生は学校や仕事後の参加のため、基本的には 16 時半以降しか授業ができないという制約がある。

担当時間割						
	月	火	水	木	金	土
16:30- 18:00	2 年生 昼クラス	1 年生 昼クラス	2 年生 昼クラス	1 年生 昼クラス	1 年生 金曜クラス (前期のみ)	3 年生 (後期は金 曜に移動)
18:30- 20:00	2 年生 夜クラス (2月まで)	1 年生 夜クラス	2 年生 夜クラス (2月まで)	1 年生 夜クラス	1 年生 金曜クラス	3 年生

<各学年授業>

日本情報センター 日本語コース 1年生

学生数: 44名→26名

時間数: 90分×2コマ/週

主教材: 『みんなの日本語 初級 I』

副教材: 自作プリント・『みんなの日本語初級で読めるトピック 25』

『毎日の聞き取り』・『にほんご 90 日漢字ノート』『つなぐにほんご』

活動内容: ひらがなカタカナの導入から、『みんなの日本語 初級 I』第 20 課まで授業を行った。宿題は文字練習プリントと課ごとに『みんなの日本語』練習問題 B や『みんなの日本語 標準問題』をもとに自作したプリントを使用し、必要などころではまとめプリントも配布している。

授業は新出語の導入後、絵カードを用いて新しい文型を導入し、全体での口頭練習、ミニカードを渡しグループでの練習と確認を行い、絵での場面練習をし、会話をするという形で進めていた。会話練習後は、ゲームやグループワーク、ロールプレイなどのアクティビティを行い、課の終わりには読解やリスニングを入れた。漢字など文字の練習では、ミニホワイトボードを渡し、書き順と漢字の時は意味や語彙を確認した後、ホワイトボードに繰り返し練習し、覚えるまで書かせた。宿題では文字練習のプリントを配り、漢字は余白の部分に漢字を使った文や会話を書いてくるよう指示した。また、宿題では間違えたところにチェックを入れ、ヒントだけ伝え、正しい答えをその場でもう一度記入させた。

また最低でも 1 か月に 1 度は日本文化の授業を取り入れ、折り紙や愛媛大学との年賀状交換、歌の練習等を行った。

所見: 昼クラスは大学生と中高生の数が半々で、社会人も在籍している。静かで、積極的に会話や発言をするよりは、座学やグループワークを好んで行っていた。宿題の提出率もよく、わからないところは教えあっていた。

夜クラスは中高生が多く、反対に会話を好みよく練習したり、発言や質問も多かった。こちらも宿題の提出率は良いが、習った文法以上のことを求め、翻訳機を使ったものを提出してくる学生も多かった。積極的なことはとても良いことだが、自分のためにはならないということは伝えた。また共通して日本の文化にとっても興味を持っており、文化の授業では楽しそうに取り組んでいた。

評価: なし。

小テストを行うことはあったが、復習のためで評価は行っていない。

## 日本情報センター 日本語コース 2年生

学生数： 18名→7名

時間数： 90分×2コマ

主教材： 『みんなの日本語 初級ⅠⅡ』

副教材： 自作文法プリント・『みんなの日本語初級で読めるトピック25』  
『毎日の聞き取り』・『にほんご90日漢字ノート』・『つなぐにほんご』

活動内容：『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』を用いて前年の復習から始まり、第35課まで授業を行った。授業の進め方は1年生と変わらないが、アウトプットの作業を増やし、作文から始め、簡単なプレゼンテーションや、ロシア文化紹介の記事等を作成した。作成されたものはフェイスブックのページに掲載予定。また、アニメに興味のある学生が多かったため、アニメを用いた授業も行った。

所見： 年末にかけて忙しい時期になったため、後期から人が減り1クラスに統合された。ほとんど中高生の女の子で、積極的に発言をしたりはするが、日本語を使って何かをしたいというよりは、学習自体が目的のため、ロシア語使用が多かった。また統合された後も、クラス内は二分されたままで交わろうとはしていなかった。しかし真面目であり、知識欲はとて高く授業外での質問も多く、文化交流にも積極的に参加していた。

評価： なし。

## 日本情報センター 日本語コース 3年生

学生数： 9名→3名

時間数： 90分×2コマ/週

主教材： 『みんなの日本語Ⅱ』『中級へ行こう』

副教材： 自作プリント  
『にほんご90日漢字ノート』・『つなぐにほんご』

活動内容：『みんなの日本語 初級Ⅱ』については1,2年生と同様に行い、終了後は『中級へ行こう』を使用し、既習文法の復習と応用を行った。グループワークのほか、語彙導入ではまず自分で調べ、その言葉で例文を作り、授業中に確認したり教えあうなど、教わるだけではなく、分からないことは調べるという練習も行っている。社会問題などで使われる語彙も増え、ロシアのニュースの紹介や、オレンブルグで問題になっていることを話し合い、その後作文に起こすこともあった。またドラマを用いて敬語の練習をしたり、内容やあらすじを日本語でまとめたりといった授業も行った。

所見： みな熱心なクラスだったが、転学や体調不良で来られず、最終的に女性 3 名のクラスになった。積極的に取り組むというよりは、静かにきちんとこなしていくので、宿題や作文などの個々に与えられた課題はよくできていて、定着も良かった。静かではあるが、会話もきちんとできており、話すときはよく話していた。また、学外の文化交流の手伝いも積極的に参加してくれていた。これからも伸びていくことが期待できる。

評価： なし。

#### <個人指導>

- ・授業外での各種質問対応

#### <課外指導>

- ・2019年4月：「沿ヴォルガ地方日本語弁論大会」（於：ニージュニーノヴゴロド）に審査員として参加した。

#### <反省点と今後の展望>

- ・日本人と話す機会がほとんどなく、実際に日本人が来た際はうまく話せず、英語での会話になってしまった。そのため会話の練習を増やし、語彙も積極的に入れた。日本人と話したいと思っている学生もいれば、ただ日本語を知りたいと思っている学生もいるので、希望者には日本人と話す機会を増やしていきたい。
- ・弁論大会への参加者を出せなかった。理由としてはお金がかかることと、時間がないとのことで、中高生だと親の承諾がないと難しく、また学校を休まなければならないので参加が厳しい。12月の段階で大学生や社会人数名に声をかけ、早めに準備をしておく必要がある。
- ・昨年度は試験が近くなる1月、5月は休む学生が増え、そのままついていけずやめてしまうケースが多かった。今年度1年生はクラスでのSNSグループを作り、情報共有したおかげで復帰できる学生もいたので、これからはSNSで進度や宿題等休んでいる学生にも共有できるように全クラスで利用していくことを勧めたい。

#### (4)その他の業務

- ・プレゼン 主にセンターで行われるイベントを中心に日本文化についてのプレゼンテーションを行った。テーマは『年末年始の過ごし方』『日本の家族』他。
- ・マスコミ対応 地域のイベントの日などにラジオやテレビの取材を受け、オレンブルグで感じたことや日本の文化について簡単に紹介した。

- ・地域イベント参加 センターを通じて依頼を受け、美術館などで風呂敷や折り紙などの日本文化を紹介した。他イベントでは、簡単な日本語のあいさつや書道なども行った。
- ・提携校との交流 広島大学、愛媛大学のサマースクール、広島大学の学長が来学された際や愛媛県の代表団との交流でイベントの雑務等のお手伝いをした。また例年行われている愛媛大学との年賀状交換も11月に実施した。

## (5)青年交流

### ・サマースクール（2018年9月）

広島大学、愛媛大学から7名の学生が来学し、1週間ほどロシア文化やロシア語の授業を受講し、日本語学習者と交流をした。その中の「世界の食堂」という授業では、各国の料理を持ち寄り、紹介しあった。日本からはお好み焼きやみたらし団子を作って参加した。また学生を日本語の授業に招いて日本語で会話をしたり、ロシアへ来られなかった学生たちに向けて手紙を書いたりした。

### ・「日本の日」（2018年10月）

「日本の日」は10月4日とそこから1週間ほど行われるオレンブルグ国立大学日本情報センター主催のイベントである。毎年10月4日の日本人ピアニストによるコンサートから始まり、日本映画上映、坊ちゃん劇場の演劇上映や、着物、風呂敷、折り紙などの日本文化マスタークラス、講演など多岐にわたり実施される。大学生向けのイベントのほか、近隣の子供たち対象のイベントも多く、たくさんの人が参加している。今年度は書道と折り紙のマスタークラスと詩の授業（大学生向け）を担当した。

### ・夜の美術館（2018年11月）

日本の展示会が行われている美術館からセンター宛てに依頼があり、3時間ほど展示会の中で風呂敷と折り紙のブースを担当した。

### ・愛媛県・オレンブルグ柔道交流（2019年5月）

愛媛県から9名の柔道グループと愛媛県庁のスポーツ担当者が来学、交流が行われた。大学内での会議とその後のオレンブルグ大学ダンスグループとの交流会に参加した。

### ・オレンブルグ劇場フェスティバル（2019年6月）

愛媛県庁と坊ちゃん劇場から代表団がオレンブルグを訪れ、地元映画館にてミュージカル「誓いのコイン」の上映会が行われた。上映会とその前日に行われた大学での会議に参加した。



## (6)任地の生活事情

- ① **電気**…供給に問題はないが、コンセントが老朽化しており使えないものもある。時々、ブレーカーが落ちることによる停電があるが、数分で復旧する。
- ② **水・温水**…温水は茶色く濁っていることが多いが、止まったことはなく継続して使えている。冬になる前に点検の関係でお湯が数日止まることがある。また、旅行などから帰った際、数日使っていないと泥が出てくる。
- ③ **生活必需品**…徒歩5分のところにスーパーや商店等があり、食品はここで買える。15分ほどのところには中央市場とデパートがあり、こちらのほうが野菜も肉も新鮮で、日本食に使う食材等も買える。市場では食品以外のものも多く売っているが、バスで40分のところに町で一番大きいショッピングモールもありそちらの方が品揃えも質も良い。
- ④ **衣類**…真冬用の防寒具は大型ショッピングモールでそろえた。市場には安い服もあるが質はあまりよくないので、デパートで買ったほうが良い。今年はデザインの良い服や靴が増えた。大きいサイズが多いので、ほとんどは日本から持参したもので過ごした。
- ⑤ **住居**…日露派遣教師のために大学が借り上げているアパートに住む。家賃光熱費は大学負担であり、家具や家電も揃っている。10年目になるため家電等の老朽化はあるが部屋自体はきれいで日当たりもよい。エアコンがないため、夏の30度を超える日などは過ごしづらいこともある。教具や教材等は全て置いておけるので年度が変わる際もどこかに一時保管する必要はない。中心部にありアクセスもとても良い。また、アパートから日本センターまでは徒歩10分弱で、大学構内を通るため夜間でも人通りが多く明るい。
- ⑥ **交通の便**…市内の移動はバスが主である。運賃は22~24ルーブルで、バスの番号によって異なり、また値上がりしてきている。タクシーでの移動も市内であれば80ルーブル~200ルーブルほどと安いので、荷物が多い時などは利用すると便利である。空港までは車で30分~1時間ほどで、タクシーを利用する(約500ルーブル)のが一般的である。
- ⑦ **物価**…あまり変化は感じないが、野菜などは季節で値段が変わり、夏のほうが安くなっている。食品に関しては全体的にとっても安いですが、服やかばんなどは日本と変わらない値段である。

- ⑧ **治安状況**…不安を感じることはない。中心部で大学からも近いので、常に人がいて昼間はにぎやかだが夜は治安が悪い場所もあるので、極力出歩かないようにしている。バスの中や市場ではスリもあると聞くので最低限の自衛は必要である。冬など早く暗くなるときの授業終了後は、学生が送ってくれている。

#### (7) **その他**

4月に気温差により風邪をひき1週間入院することになった。州立病院は無料ではあるが、環境はあまりよくなかった。

#### (8) **終わりに**

今年が「ロシアにおける日本年」だったということもあるが、年々オレンブルグと日本の交流が盛んになってきている。今年には日本から訪れる人も多く、夏には学生たちが日本へ行くという話もある。そのような年にオレンブルグで日本語を教えたり、文化交流に携わることができたことをとても嬉しく、他にはない貴重な経験だったと感じている。

これからも文化交流はますます盛んになり、日本語を学びたい学生も増えていくと思われる。日本語の授業に関してはすべて一任されており、やりがいがあると同時に不安に感じることもあった。そのため今回作成したプリントや新しく始めた活動が今後の派遣教師の一助となればと思う。またオレンブルグへの派遣事業が長く続くことを願っている。

最後に日露青年交流センター、国際交流基金、在ロシア日本大使館、派遣教師の方々をはじめ2年間支えてくださったすべての方に感謝の意を表したい。